

# GK情報レポート

【2018年発行】

vol. 56

春号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

〒252-0212

神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

## Contents

1. 太物丸棒の製品長について
2. マグネシウム製のテーブル
3. 新入社員紹介
4. 相場情報『2018年第2四半期見通し』

皆様でご回覧下さい。

回覧印										
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～55）を用意しております。ご希望の方は当社営業部までお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

## 1. 太物丸棒の製品長について

当社では丸棒製品として、主に C1100・C3604・C3604 低カドミウム丸棒の製造・販売を行なっております。その中でも特に当社が得意としている太物丸棒は、鍛造後旋盤加工で仕上げられており、他社の押出丸棒と比べて寸法精度と真円度が格段に優れ、曲がりもほとんど無く、お客様から非常に高い評価を頂いております。また当社の太物丸棒は、他社製品と比べて長く、お客さまの歩留向上に貢献出来ます。その為、近年は特にお客様からのご注文が増えています。現在、当社の太物丸棒をご使用されていないお客様にも、ぜひご検討頂きたく、下記に太物丸棒の概算長と重量を記載しました。ぜひご活用下さい。

### 銅丸棒 C1100BD-H(95Φ～110Φ)/BF-F(120Φ～200Φ)

サイズ(Φ)	長さ(mm)	重量(kg)	サイズ(Φ)	長さ(mm)	重量(kg)
95	3,800～4,000	240～250	150	1,700～2,000	265～315
100	3,800～4,000	265～280	160	2,000～2,400	360～430
110	3,500～3,700	295～310	170	2,100～2,200	425～445
120	1,700～2,000	170～200	180	1,800～2,100	405～475
130	2,300～2,500	270～295	190	1,600～1,700	400～425
140	2,000～2,200	275～300	200	1,500～1,700	420～475

※90Φ以下は 4,000 mm定尺 ※95Φ～110Φは圧延後引抜／115Φ以上は鍛造後旋盤。

### 黄銅丸棒 C3604BD-F(95Φ～110Φ)/BF-F(115Φ～300Φ)

サイズ(Φ)	長さ(mm)	重量(kg)	サイズ(Φ)	長さ(mm)	重量(kg)
95	3,600～4,000	215～240	190	2,400～2,500	575～600
100	3,400～4,000	225～265	200	2,100～2,400	560～640
105	3,700～4,000	270～295	210	2,000～2,100	585～615
110	3,300～3,700	265～295	220	1,800～1,900	580～610
115	2,200～2,500	195～220	230	2,000～2,100	705～740
120	2,400～2,600	230～250	240	1,800～1,900	690～730
130	2,300～2,400	260～270	250	1,700～1,800	705～750
140	2,500～2,800	325～365	260	1,500～1,700	675～765
150	2,400～2,700	360～405	270	1,500～1,600	730～775
160	2,250～2,400	385～410	280	1,300～1,400	680～730
170	1,900～2,100	365～405	290	1,200～1,300	670～730
180	2,400～2,600	515～560	300	1,100～1,200	660～720

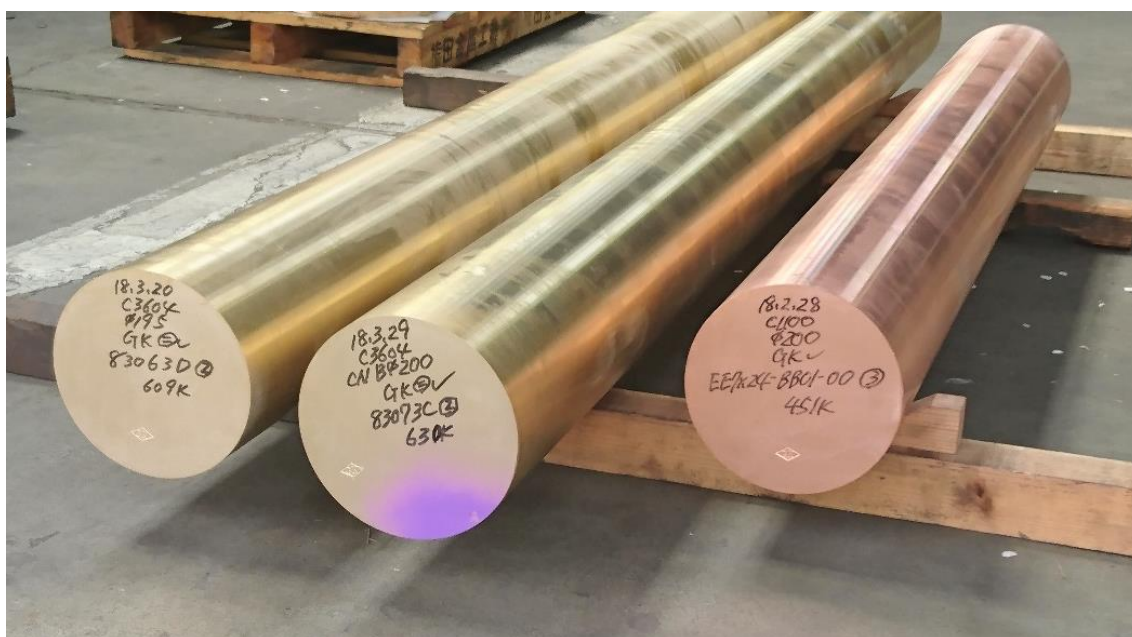
※90Φ以下は 4,000 mm定尺 ※95Φ～110Φは圧延後引抜／115Φ以上は鍛造後旋盤。



低カドミウム黄銅丸棒 C3604BD-F(100Φ~110Φ)/BF-F(120Φ~200Φ) ※CN34-75

サイズ(Φ)	長さ(mm)	重量(kg)	サイズ(Φ)	長さ(mm)	重量(kg)
100	3,700~4,000	245~265	160	2,200~2,300	375~390
110	3,450~4,000	275~320	170	2,000~2,100	385~405
120	2,250~2,600	215~250	180	2,400~2,700	515~580
130	2,150~2,450	240~275	190	2,400~2,600	575~625
140	2,500~2,800	325~365	200	2,100~2,200	560~585
150	2,400~2,600	360~390			

※95Φ以下は 4,000 mm定尺 ※100Φ~110Φは圧延後引抜/115Φ以上は鍛造後旋盤



左/C3604BF-F 195Φ(一般材), 中/C3604BF-F 200Φ(低カドミウム), 右/C1100BF-F 200Φ

※低カドミウム品は C3604 品と区別する為、端面を紫のスプレーで塗布しています。

記者 高橋



## 2. マグネシウム製のテーブル

2018年2月21日に東京大学リサーチキャンパス(東京都目黒区駒場)で「Taste of Japan」と銘打った催しが行われました(参照:<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/2865/>)。このイベントは東京大学に留学している学生と日本の学生が日本の「食」を通じて交流すること目的として開かれました。



開催時間は昼食時の2時間弱程度と限られていましたが、当初の見込みの100名を大きく上回る、約130名もの方々が参加され、盛況を呈していました。



マグネシウム合金  
製テーブル

イベントスタッフの皆さん(後列右から6人目が川添准教授) 東京大学ホームページより

このイベントでは、きりたんぼなべなど秋田県の郷土料理を中心とした日本の「食」がワンコイン(500円)で振舞われました。

当日は、東京大学川添研究室が設計をし、当社がマグネシウム合金で製作したテーブル2基が食卓として使われました。

このテーブルは全長 1400mm。幅 550mm。設置時の高さは 550mm です。厚みが 2mm と 3mm の板で成り立っています。テーブルには、アルミ分を 6%含み強度に富んだ AZ61 系のマグネシウム合金が使用されています。テーブルの重量は 1 基 16kg でしたが、アルミを使って同じデザインで作ったとすると 24kg にもなります。

また、食卓を囲んだ方々からは、マグネシウムにはアルミや鉄にはない暖かさがあると好評を得ていました。

その新規性に注目した川添准教授がマグネシウムの可能性を探るなかの一つのアウトプットとして今回の食卓が誕生しました。手を置いたときに金属でありながらひんやりとせず、ぬくもりさえ感じるような肌触りがあることもマグネシウムを使っていたいただいたもうひとつの理由でもあります。

今回食卓にマグネシウムをご採用いただいた川添准教授をはじめ研究室の皆様へ、厚く御礼を申し上げます。

記者 田中

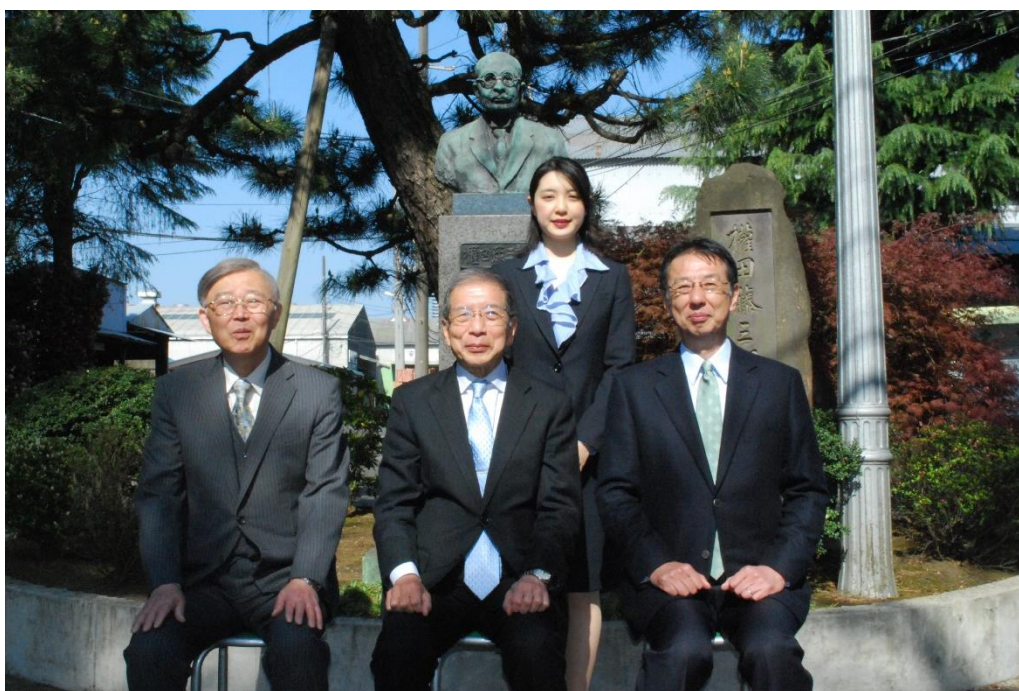


### 3. 新入社員紹介

当社では将来の更なる発展の為に毎年新入社員を採用しています。

今年は当社社長・権田の長女、有紀子が入社致しました。大学を卒業後、大手伸銅品問屋で4年間勤務した後の入社となります。

4月2日（月）に入社式を行い、現在は社内での工場研修で毎日頑張っています。いずれ皆様にご挨拶させて頂く機会もあると思います。よろしくお願ひ申し上げます。



(向かって前列左から取締役総務部長・山本、代表取締役社長・権田源太郎、  
専務取締役・権田善夫、後列 権田有紀子)

記者 日吉

## 4. 相場情報『2018年第2四半期見通し』

### 1. 電気銅建値推移

2018年1月	825.7円/kg	2018年2月	801.5円/kg
2018年3月	765.7円/kg	2018年4月	760.0円/kg スタート

### 2. 銅地金の需給状況

昨年12月に平均19万5千トンあったLME指定倉庫の在庫は、今年2月には32万2千トン、4月初めには38万3千トンまで増加している。

昨年未以降、世界の銅需要の約半分を消費する中国経済に陰りが見え始めた。中国の様々な実経済の指標（電力消費、鉄鋼生産量、貨物運送量等）が軒並み悪化している。中国製造業購買担当者景気指数/PMIは昨年12月の51.5から本年2月には50.3になっている（6ヶ月平均では51.50）。また、不動産市況も昨年秋以降、上昇にブレーキがかかっている。3月末に、中国政府は、今年の自国内の銅地金消費量は1110万トン（世界の消費量の約半分、日本の消費量の約10倍）、前年比で3.3%増と昨年の4.2%増から減速すると予想した。

アメリカの金融政策を決めるFOMC（連邦公開市場委員会）は、経済成長率の見通しについて昨年12月時点の2.5%から本年3月末には2.7%に引き上げた。2009年夏に始まった米国の景気拡大期間は、今年4月時点で8年10ヵ月となった。米労働省が3月末発表した失業保険申請件数（季節調整済み）は前週比1万2千件減の21万5千件と、1973年1月以来、45年超ぶりの低水準まで改善した。総じてアメリカの景気は底堅く推移しているが、トランプ大統領が鉄鋼およびアルミに対してそれぞれ25%と10%の関税を賦課する大統領令を発行した。これに対して中国が米製品に報復関税を課すことを発表するなど今後も過激な発言を繰り返すとみられ、ドルを中心とした世界経済の先行きは予断を許さない状況となっている。

供給面では、2017年は世界最大の銅鉱山エスコンディエーダ（チリ）の2ヶ月に及ぶストライキや世界第二位のグラスバーク（インドネシア）の精鉱輸出禁止措置などが大きく影響し、前年比2.7%減となった。しかしながら、2018年、エスコンディエーダの操業は回復している。また、銅価低迷により生産停止に踏み切り、あるいは減産を行っていたコンゴのカモトやザンビアのモパニなどアフリカ各地の鉱山の生産量が向上し、世界全体では2016年並みの供給量まで回復すると国際銅研究会（ICSG）はみている。国際銅研究会（ICSG）の予測では、2018年の供給量2千3百60万トン（前年比2.5%増）、需要は2千4百30万トン（同比2.3%増）となっている。

### 3. 為替の見通し

3月末には、米国発の通商摩擦への懸念から、リスク回避として株が売られ債券が買われる世界的な株安傾向が生じた。ドルを敬遠した資金も円に流れ、為替は円高に向かった。米国政権内では、コーン国家経済会議（NEC）議長が辞任、ティラーソン国務長官が解任され、後任には対中国強硬派と目されるクドロー氏とポンペオ氏が指名され、通商摩擦に対する懸念は当分続きそうである。米国は個人消費支出（PCE）が増加するなど経済自体は上向いているものの、現時点では、為替に対する影響は、米国内の経済状況よりも、政治状況や外交の影響が大きく、円高傾向はしばらく続くものと思われる。

### 4. 今後の見通し

世界的に経済状態が安定化に向かう中で、暫く下落基調であった銅価は、昨年は一時的に上昇した。だが、今年にはいつから、世界の銅の需要の半分を担う中国の景気に曇りが見えてくる中で、次第にLME在庫は増加し、銅価も下がり傾向となった。年初に1トンあたり826,000円前後あった銅地金の価格は4月初めの時点で8%程度安くなっている。為替は円高、ドル安に進行し、円建ての国内価格をさらに押し下げている。

短期予測(1M) LME \$ 6,500~7,100/トン 為替 104~108円/\$  
銅建値 740~780円/kg

長期予測(3M) LME \$ 6,400~7,300/トン 為替 103~110円/\$  
銅建値 740~800円/kg

記者 田中

